

第9回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

●日 時 平成30年8月28日（火） 13:30～15:00

●場 所 京都府立中丹勤労者福祉会館

●内 容

1 開会あいさつ

京都府では、本年3月に第8次高齢者健康福祉計画を立てたところ。福祉人材のとりわけ厳しい状況が続いている中で今年から3年間で7500人、そのうち北部で1050人の人材を確保する計画を立てている。

北部においては、昨年宮津に総合実習センターが開設され、北部での人材の育成、養成研修とあわせて一連のサイクルが出来上がった。また、フィールドワーク事業についても夏休み期間等を利用して受入が進んでいるところ。

本日は有識者委員として同志社大学の野村先生、それから地域の市町へ就職支援機関、福祉医療関係団体教育関係などを関係の皆様にお集まりいただいた。よりよい行政システムの推進を図り、人材確保につなげるための議論の場としたい。

2 議題

(1) 京都府北部の介護・福祉人材確保事業について（7月末時点進捗報告）

■北京都ジョブパーク福祉人材カフェ

新規登録者数：139名（年間目標：420名）

内定者数：168名（年間目標：380名）

- ・ハローワークの協力を得て北部の各地域で企業の就職説明会等を実施。
- ・北京都ジョブパーク全体として新規登録者数の確保が難しい状況。認知症サポーター養成講座の実施、無料求人情報誌への広告掲載等、広報計画についても見直しを実施する。

■ハローワーク連携事業

- ・ハローワーク等の連携させていただいて、福祉の就職説明会を25回開催、出張相談14回実施。
- ・合計相談者数25名

■福祉即戦力人材養成科

- ・10月25日～3月22日開講（8月27日～募集開始）

■大学実習等誘致事業

- ・京都市内8大学から94名の学生の参加が予定。
- ・下半期はゼミ単位で参加していただくツアー企画などを実施。
- ・今後は、フィールドワークに参加学生の就職率のデータ化、LINE WORKSの導入による実習受入などICTを取り入れた実践等を検討。

■理解促進事業

- ・次世代担い手育成事業（小学校中学校対象）

9月中旬までで6校151名が参加予定

- ・次世代担い手事業（高校生対象）

出前講座、福祉施設の見学会、インターンシップについてはほぼ目標を達成。

進路指導セミナーは宮津総合実習センター・ルートで9月中旬実施調整中

■北部福祉人材養成システム

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

- ・介護福祉士実務者研修：6月～12月、30名×2クラスで開講。
- ・介護職員初任者研修：4月～7月12日間で開講。13名受講。
- ・現任者研修
 - 契約職員研修：23名受講（定員30名）
 - 基礎技術研修（3日コース）：14名受講（定員20名）。
 - 次世代リーダー研修：17名受講（定員40名）
 - 京都府北部経営管理連携研修：綾部で開催。21名受講者（40名定員）
- ・今後の予定
 - 中堅職員向 OJT 推進力向上研修：30名定員。
 - ジョブ・クラフティング研修：30名定員。
 - 外国人受け入れスタッフ研修：20名定員。
 - その他（普通救命講習、防災研修、介護福祉士国家試験対策講座）

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

- ・入学者数の変遷
 - H27 14名→H28 23名→H29 23名→H30 22名
- ・今年度入学者22名中9名が留学生
- ・これまでの卒業生29名は、すべて施設に就職。

《宮津総合実習センター》

- ・今年度から実習受け入れを本格的にスタート。
- ・資格実習（介護福祉士、社会福祉士、保育士、看護師）の実施。
- ・インターンシップ、フィールドワーク等での学生受入。
- ・高校生ボランティア、現場体験の受入（アクティブラーニング）、地元高校の授業を受け持っている。

《きょうと介護・福祉ジョブネット 北部フィールドワーク型実習推進チーム》

- ・5/29キックオフミーティングの開催
- ・プログラムの検討・作成を行い、現在受入調整等を行っているところ
- ・受入施設からの報告（成相山青嵐荘）

大谷大学3名を受入。学生が真面目で一生懸命地域の事を知りたいという思いが伝わってきた。地域に大学がないので、地域団体、関係事業所、行政、医療関係者の方々が、暖かく優しく、受入れてもらった。以下、学生の声。

「今回の実習で地域、人たちの繋がりが強いけど、若い人手が足りないことがよく分かった。制度と社会問題があっていない時代。」「実習中に様々なところに行って話を聞いて、自分たちが大学でしている学びに繋がることがたくさんあった。」「来年度はもう少し絞って事業所を見て回るともっと深い話や職員の方と関係が深まると思った。また来年もこの実習に参加してみたいと思った。」「基本的に話を聞くことが多かった分幅広く知識を身につけることが

- できた。でも、話を聞いていて私達が考察したことを発表する機会が少し欲しかった。宮津めっちゃ楽しかった。」
- ・タイトなカリキュラムだが、宮津市全般を知ることができて、大学側からは来年も実習をやりたいと要望がある。
 - ・他大学の状況としては、京都文教大学がはじめて参加予定、花園大学もフィールドワークとしては初めて参加予定。
 - ・今後の展開としては、LINE WORKS を使って先生が来なくても実習ができるような仕組みづくりを検討しており、9月に京都府立大学のフィールドワークで試行する。

《同志社大学 野村准教授》

地域共生社会の実現を志向した、地域を基盤としたソーシャルワーク実習のあり方について日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）が研究調査事業を行っており、その内容を少し紹介したい。

地域を基盤としたソーシャルワークが求められるなか、地域のアセスメント、地域課題ニーズへのアウトリーチや把握、地域住民や関係機関等とのネットワークの構築、不足する社会資源の創出などが「実際にできる」ことが今後のソーシャルワーク専門職の養成の推進に必要である。ポイントは、「わかるからできるへ」というところにある。これまでの養成教育では、知っている・理解しているというレベルまでしか求められていなかったところが今後は「実際にできる」という、より実践的なものを養成段階から入れるべきであるということで、昨年度日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）で厚労省調査研究事業としてモデル的な実習を実施したという経緯である。この背景としては、2020年（平成32年）には社会福祉士の養成方法が変更される（予定）ということがあり、現在、地域を基盤としてより実践的に活動できる人材養成を行っていくという方針でカリキュラム等の検討が行われていると聞いている。

京都府北部で取り組まれているフィールドワークは、この新たなカリキュラムに求められる要素を含むものである。先ほどの成相山青嵐荘でのフィールドワークプログラムにもあったが、たとえば社会資源としての図書館など一見社会福祉教育に関係がないと思われるところが参画する中で、福祉課題を含む地域生活課題に取り組む実習がますます求められると言われている。

また、一昨年度になるが、同じくソ協連の研究調査事業では、地域包括支援センター、市区町村社会福祉協議会、障害者相談支援事業所、保健医療機関、精神科医療機関、独立型社会福祉事務所に所属する社会福祉士の個人や家族、地域への働きかけを調査したところ、個人・家族への働きかけというのは全てのところで意識しているものの、例えば地域への働きかけに強いと思っていた地域包括支援センターでも、地域への働きかけが実施率、力量ともに予想していた水準には達していないと結論づけられている。こうした現場の状況を踏まえ、地域を基盤とした導入実習の必要性が明らかになってきている。これまでの北部での取り組みがそういった流れにうまく組み込めればと思う。

■ 質疑応答

《事務局》

舞鶴 YMCA の留学生について、市から奨学金があるのか？

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

就職先として予定している施設から一部奨学金が出ている。

(2) 北部各市町、関係団体からの報告

《福知山市》

- ・介護人材確保対策事業 11,886 千円（継続）
 - 各種助成金支給事業（介護職員 UI ターン家賃助成事業（㊹13 名）、介護福祉士修学資金貸付事業（㊹2 名）、介護福祉士実務者研修受講料補助金（㊹22 名）、介護職員初任者研修受講料補助金（㊹7 名）
 - 介護職員実務者研修実施補助金（研修会場の使用料補助）

《舞鶴市》

- ・介護人材確保支援事業 54,655 千円（継続）
 - 介護福祉士奨学金制度
 - 介護職イメージアップ冊子の作成

《宮津市》

- ・介護人材確保推進事業 1,500 千円（継続）
 - 介護資格取得研修等の受講費の補助金、介護福祉士修学資金
 - 修学資金については今年度から、入学金、前期授業料の支払い時に間に合うように前倒しで支給
 - みやづ福祉介護就職フェア（平成 29 年度から北京都ジョブパーク共催）の実施

《綾部市》

- ・UI ターン介護人材確保事業 1,520 千円（市内の事業者に勤めされている方への家賃補助）
- ・介護福祉士養成支援事業費 4,000 千円（修学資金貸与）

《京丹後市》

- ・京丹後市介護福祉士養成奨学金 1,800 千円（新規）
 - 用途を授業料・入学金に限定しない

《伊根町》

- ・介護福祉士資格取得研修費補助金 100 千円（継続）
- ・平成 30 年度に町として奨学基金を創設、介護に関わらず大学に行かれた方が対象。

《与謝野町》

- ・喀痰吸引等研修事業費補助金 240 千円（継続）
- ・介護福祉士資格取得研修費補助金 1,000 千円（継続）
 - 平成 30 年度で終了予定であるが、町内の事業所連絡会で新規の補助金について議論をしている。
 - 外国人労働者につきましても調査研究を行いたい。

《京都府老人福祉施設協議会》

何名人材が確保できたと報告を聞くが数値と実感に差がある。実態を掴むため、できれば団体内で調査を実施したいと考えている。北部では、養成システムで実習センターや養成施設ができたので、そこを着実に活用して北部に人材を引っ張ってきたい。北部には魅力ある施設、事業所があるということをぜひ、PRしていただきたい。

《京都府介護老人保健施設協会》

協会として毎年大会を開催しているところ。学生や教員に大会参加を呼びかけ、1回生のころから学生に見に来てもらって、取り組み内容を聞いてもらう機会を設けている。

《京都府知的障害者福祉施設協議会》

人材確保に関して、協議会全体で何か共通した取り組みをしているわけではなく、それぞれの法人あるいは事業所単位で対応しているのが実情である。加盟施設の中で共通の課題として、改善に向けた取り組みをしていくというようなことを大切なことと感じながら、なかなか一歩踏み出せずにいるのが実情。知的障害分野は少数の分野で大きな力として打ち出していくことが難しいと感じる。

《京都社会福祉士会》

社会福祉士の実習の形も変わっていくところ。実習指導者の養成の中に、よりフィールドワーク的要素も含めた魅力ある実習のやり方について会で検討できたらと思う。

《京都府看護協会》

看護協会としては、吸痰で指導看護師の育成を行っている。研修については、介護施設で働いている介護職の方と認知症、褥瘡、排泄に関する研修を会員以外の方たちも対象に実施している。地域包括ということであるが、医療分野の看護師は介護、在宅のことの知識が少なく、一緒に協働・連携して勉強しないといけないと思う。いろんなところで取り組んでいる。

《京都府立高等学校長会》

北部の高校に出前講座等で実施しているほか、高校生がたくさん個人的にボランティアで参加している状況があるが、人数は学校でつかみきれいなと思われる。最初から福祉を目指す生徒、福祉施設の方から話を聞いたのをきっかけに福祉を目指す生徒、ボランティアやインターンシップをきっかけに福祉に進む生徒もいる。また、福祉系列の生徒が全員福祉に就職するわけではなく、大学に行って社会福祉士を目指す生徒もいる。そのようにいろんなチャンスは高校生には与えていただきたい。今年の夏に3年生8名、2年生16名福祉系列の選択者の実習を丹後でお世話になり、丁寧に指導していただいたと感謝している。

3 閉会挨拶

人材確保の取組について、京都府の取組をモデルとして取り組んでいきたいと厚生労働省からおっしゃっていただいている。仕組み自体はしっかりしていると考えているが、本日はそれぞれ課題意識もおりまぜて、各立場から報告いただいた。この福祉業界にどれだけ振り向いていただけるか、若い人は様々な年代の方に、福祉に仕事として関わってほしいという方をどうやって増やすかが大切だと考えている。人材難、人材不足は福祉業界のみでは

ない。福祉の魅力ややりがいをいかにうまく伝えていくか、いろいろなアイデアを巡らして取り組んできたが、もっと発想を広げていかなければいけない時代になった。京都府としても、皆様方、福祉業界の方、あるいは学生さんにそうしたアイデアを得ながらとにかくこの業界に振り向いてもらえるには如何にすればいいのかということを引き続き、頭に置きながら取り組みを進めてまいりたい。